

G-CPD システムの新機能とデータ分析結果

(株)大林組 伊藤 政人

1. はじめに

『地盤工学会継続教育(G-CPD)制度』は、会員の学習記録を地盤工学会が管理および証明を行うことにより、会員の継続的な学習・教育を支援し、ひいては地盤工学関連技術者の育成と資質の向上を目指すものとして導入されました。またこうした会員の教育あるいは学会活動記録を分析し、その結果を将来の学会のあり方へ反映させることもG-CPD システムの導入目的のひとつでもありました。

G-CPD システムは2002年5月から暫定運用を開始し、2003年4月から本格運用をスタートさせています。暫定運用開始からはすでに2年余りが経過し、徐々に会員の活動記録データが蓄積されつつあります。そこで、当委員会では本システムが会員の皆様により使いやすいものとなるよう、本システムにデータ分析結果(グラフ)を会員が閲覧できる新機能を追加しました。また、学会自身が学会の活動記録や会員参加状況などを把握できるようなデータ分析機能も付け加えました。本稿では、G-CPD システムのこれら新機能を紹介するとともに、これまで得られている会員のCPD登録状況に関するデータ分析結果について示します。

2. G-CPD システムの新機能

G-CPD システムに追加した主なデータ分析機能を以下に示します。

2.1 一般会員向けの機能

一般会員は、各年度毎(4/1~3/31)の年齢別CPD登録単位数グラフ

主催支部別CPD登録単位数グラフ

教育形態別CPD登録単位数グラフ

を閲覧することができます。

年齢別CPD登録単位数グラフ(図-1)は、年齢別にCPD登録単位数の傾向を見ることができます(参照)。さらに、各年齢層の平均登録単位数も表示されるので、会員は自身の獲得単位数との比較を行うことができます。教育形態別CPD登録単位数グラフ(図-2)では、教育形態区分(. 講習会・研修会・シンポジウム等の参加, . 論文等の発表, . 企業内研修, . 技術指導, . 産業界における業務経験, . その他)ごとにCPD登録単位数を見ることができ、会員は自身の取得傾向との比較を行うことができます。

いずれのグラフも地盤工学会ホームページから「G-CPD システム」会員専用ページにログインして「CPD データ分析結果」をクリックすることによって表示させることができます。

2.2 管理者向けの機能

管理者は、会員向け機能に加え、各年度毎の

主催支部別イベント数および参加者数グラフ

教育形態別イベント数および参加者数グラフ

CPD登録者数とweb利用者数グラフ

CPD登録単位数ランキング表

を閲覧することができます。さらに任意期間のイベントのCPD登録単位数を表示できるリアルタイム分析機能も付加しました。これらにより管理者は、年毎のおおまかな会員あるいは支部の動向から、特定の講習会での動員状況などこまかな情報まで分析することが可能になりました。

3. 新機能を用いたデータ分析結果

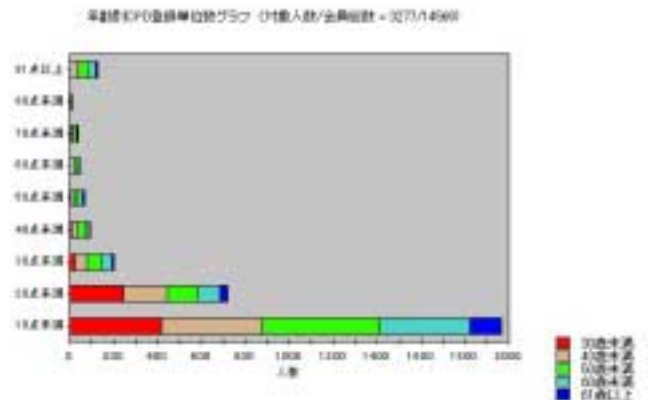


図-1 年齢別CPD登録単位数グラフ(2002年度)

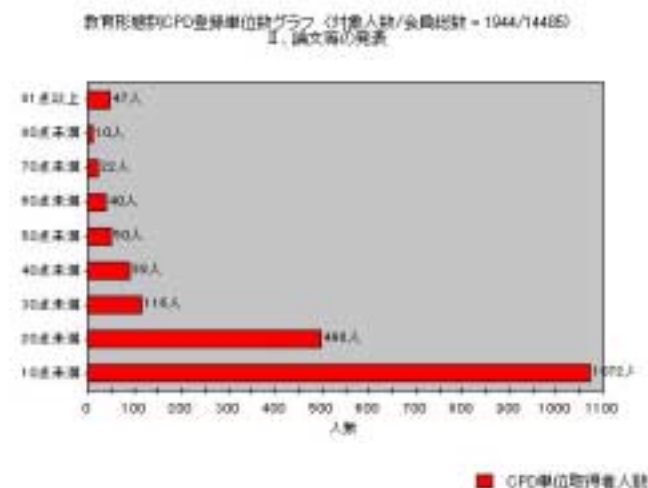


図-2 教育形態別CPD登録単位数グラフ(2002年度)

新機能によって得られた 2002 年度 (2002/4/1 ~ 2003/3/31) および 2003 年度の分析結果を以下に示します。

図-3 は、2003 年度の 1 年間における CPD 登録者数と年齢分布です。CPD 会員 (= 学会員 + 特別会員会社の CPD メンバー) は 50 代が最も多く、30 才未満が少ない逆ピラミッドとなっていますが、CPD ポイントを登録した人の数は各年代でほぼ等しくなっています。これは若い方ほど CPD に対する意識が高いことのあらわれとみることができます。

図-2 には、2002 年度の 1 年間における CPD 登録単位数の分布を年齢分布とともに示してあります。1 年間に CPD 単位を登録した会員数は 3227 人 (全会員は約 14500 人) でしたが、10 点未満 (0 点を除く) の会員数は 2000 人近くもいました。一方、81 点以上獲得した会員は 200 人近くおり、さらに、1 年間での獲得ポイントの目安である 50 点をクリアした会員は 250 人以上に達していました。年齢分布を見ますと、10 点未満、20 点未満の低得点グループでは、各年代ともほぼ同程度もしくは 30 才未満が多い傾向にあります。しかしながら、50 点以上の高得点グループでは 30 才未満の会員が少ないことがわかります。

図-4 には図-2 と同じ CPD 登録単位数分布の 2003 年度のデータを示しています。1 年間に登録した会員数は 3002 人に減少し、1 年間に 50 点以上獲得した人数も 160 人に減っています。図-5 には 2002 年度および 2003 年度の教育形態カテゴリ別のイベント数 (講習会や論文発表、委員会など CPD 記録の対象となる項目) を示しています。2002 年度の総イベント数は 1110 件でしたが、2003 年度は 905 件と 200 件ほど減少しており 2003 年度の CPD 登録会員数が減少したのはイベント数の減少が原因と考えられます。

4. あとがき

G-CPD システムが本格稼働し始めてから 1 年余りが経過し、ようやくデータの分析、特に経年変化に関する考察が可能になってきました。本稿では、まず第 1 段階として、CPD 登録者数やイベント数の推移についての分析結果について紹介しました。

今後もこうした全体的な動向分析から、講習会あるいは講習会カテゴリ毎の登録者数など、さらなる細かい分析を行っていき、会員の満足度が高い学会となるよう本システムを活用していきたいと考えています。最後に、多くの会員の方々が本 web システムにより、自分の登録単位や全体の動向を比較されながら、自身の継続教育の目標を達成されることを望んでやみません。

CPDポイント登録者数とWEB利用状況グラフ (参加者総人数 = 14724人)

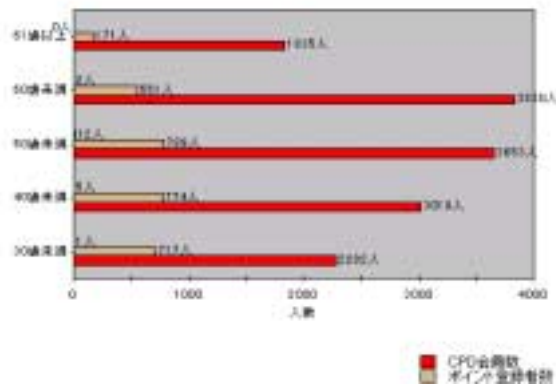


図-3 CPD 登録者数と年齢分布(2003 年度)

年齢別CPD登録単位数グラフ (登録人数/会員総数 = 3002/14724)

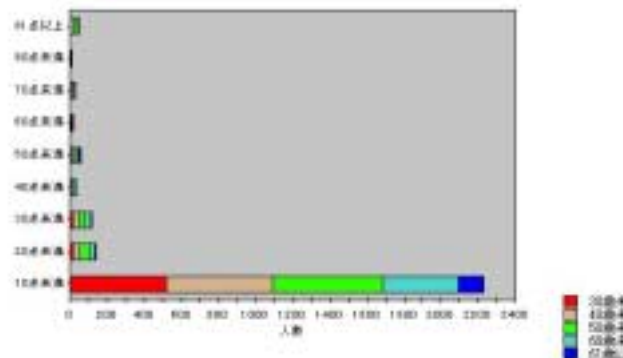
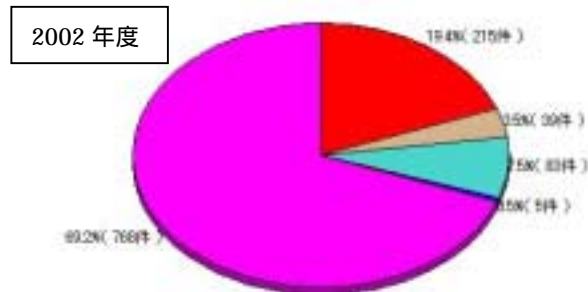


図-4 年齢別 CPD 登録単位数グラフ (2003 年度)

カテゴリ別イベント数グラフ (イベント総数 = 1110件)



- 1 講習会・シンポジウム等の会
- 2 論文発表
- 3 社内研修
- 4 その他(委員会等)
- 5 その他

カテゴリ別イベント数グラフ (イベント総数 = 905件)

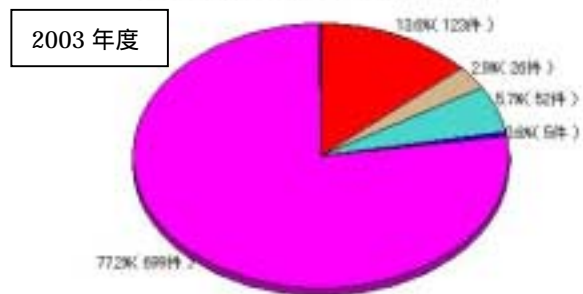


図-5 カテゴリ別イベント数 (2002 および 2003 年度)